

## 今週のメニュー

## ■トピックス

- ◇第21回 塩ビ工業・環境協会 総会・懇親会を開催  
—横田新会長VEC総会後の懇親会にて挨拶—

## ■随想

- ◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(32)

木下 清隆

## ■編集後記

## ■トピックス

- ◇第21回 塩ビ工業・環境協会 総会・懇親会を開催  
—横田新会長VEC総会後の懇親会にて挨拶—

5月22日に塩ビ工業・環境協会 第21回総会・懇親会を開催いたしました。今年度は役員改選期にあたり、横田会長((株)トクヤマ 代表取締役 社長執行役員)、宮島副会長(信越化学工業(株) 常務取締役)が新しく就任いたしました。

懇親会には官庁、報道関係、関係業界などの方々にご参加いただきました。横田新会長の挨拶に続いて、来賓の経済産業省製造産業局 上田審議官から祝辞をいただき、宮島副会長の発声で乾杯のあと、歓談に移り、盛況のうちに終了いたしました。

以下に、横田新会長の懇親会での挨拶を掲載いたします。

本日は、皆様ご多用のところ、関係官庁様、関連企業様、関係団体様、報道関係様、そして日ごろからお世話になっております多数の方々にご臨席を賜り、誠にありがとうございます。また、平素より塩ビ業界に暖かなご支援をいただき厚く御礼申し上げます。

先刻開催されました弊協会第21回総会におきまして、角倉会長の後を受け、私が会長の大役を拝命したところでございます。また、副会長には経験豊富な信越化学の宮島常務取締役が就任いたしましたのでどうぞ宜しくお願い申し上げます。

昨年度の塩ビ樹脂の状況は、生産167万トン(前年比104%)、国内出荷105万トン(前年比103%)、輸出60万トン(前年比100%)、出荷総計165万トン(前年比102%)となりました。総出荷量においては、170万トン台であった2009年度以降で最大となり、塩ビ需要の堅調な動きがうかがえる1年でありました。今年度は、2020年の東京オリンピック



横田会長



上田審議官



宮島副会長

ク・パラリンピックに向けて、建設工事やインフラ整備などが本格化することから、塩ビ樹脂の国内需要は更に伸びるものと期待しております。

さて、オリンピックはもとより世界的にも、持続可能性が大きなテーマとなっています。このような社会課題に対して、耐久性・省資源性・リサイクル性能など、塩ビ製品がもつ優れた環境性能をよりアピールすることで、需要増につながる活動を推進していきたいと考えています。

また、当協会のリサイクル支援制度で採択された、「塩ビ壁紙のマテリアルリサイクル技術の開発」は、期待通りの成果を上げました。これは、今までマテリアルリサイクルが困難と考えられてきた塩ビと紙の複合材を、一体のまま再生材に加工する独自の技術で、現在は回収された使用済み壁紙から、工事現場用の安全マットを製造するプロジェクトが進められています。

次に住宅・建築物の分野では、樹脂複合サッシを含む断熱窓は戸建て住宅において普及率65%となりました。今後は、経産省（資源エネルギー庁）から発信されたZEB/ZEH（ゼブ/ゼッチ）、いわゆるネットエネルギーゼロ政策における、集合住宅の3省合同支援事業（経産省・国交省・環境省）や断熱リフォーム支援事業（経産省・環境省）により、ビル系建築物への断熱窓普及が更に加速していくものと考えております。VECとしても断熱窓の更なる普及に向け、官・学・民の協力体制をサポートしていく所存です。

更には、工場の環境と保安対策・化学物質管理についても常に最重要課題と認識し、海外の塩ビ関連団体とも協力してしっかりと取り組んで参ります。新体制においても、会員一同力を合わせて塩ビ産業の益々の発展のため、努力致しますので、ご列席の皆様の一層のご助力・ご指導をお願い申し上げます。

最後になりますが、本日ご列席の皆様の益々のご多幸と、塩ビ産業の健やかな成長を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。ご清聴有難うございました。

## ■ 随想

### ◇古代ヤマトの遠景〔番外〕（32）

木下 清隆

<前回とのつながり>

前回までに、博多の古代史を簡単に振り返ったので、今回からは、いよいよ博多の櫛田神社の話を進めることにする。

#### 2 筑前国続風土記

櫛田神社の祭神問題を論じるためには、貝原益軒が著わした『筑前国続風土記』を見ておく必要がある。以下にその内容を紹介することにするが、櫛田神社に関係する個所を抜書きすると次のようになる。

「櫛田社 此社むかしは南向にして、社の前太宰府往還の通路なりしが、近き世より社地はもとのままにて、寅の方に向ひ、御社を改め造れり。鳥居も寅の方にたてり。祭る所の神三座、中殿は櫛田大明神、左殿は天照大神、右殿は祇園大明神なり。櫛田社は人王四十六代孝謙天皇御宇天平宝字元年に、河内国の櫛田社を勧請す。故に櫛田を以って本社とす。櫛田明神といへるは、天御中主尊十八世の孫、彦久良伊命の御子大若子命なり。



博多櫛田神社

垂仁天皇御宇越国の凶賊阿彦と云者を平ら

げにまかれとて、大若子命に勅して標剣を賜ふ。即幡を挙げて輒く退治せしかば、其功を賞して大幡主命と名を給へり。伊勢にも櫛田の社あり。又祇園社は素戔鳴尊也。此神鎮座の始は、朱雀院御宇天慶四年藤原純友誅伐、初度の追討使小野好古朝臣、博多の津にして合戦あり。神の助を祈らんため、此所に山城国祇園社を勧請せりと云。天照大神を合せ祭りし事は、いつの事にや詳ならず。…… 六月十五日に祇園の祭礼あり。猿樂をも取行ふ。又此祭に大なる作り山をこしらへ、博多津中をかきもてありく。これは後花園院永享四年六月十五日に始れり。むかし作り山の数十二あり、いつの時よりか其数へりて六となる。其式様は木にて高く台をこしらへ、まはりをきぬにてつゝみかざり、上に人形やうの物を、すべていにしへ有し故事などをまなび、衣服甲冑をきせ、或は兵杖を持せ、幡幟をさゝせ、さまざまのしわざを作りて、是をかきささ昇捧げ、社前にすゝめ、其後博多町中をもてありく。京都の祇園にくらぶるに、その制甚大也。殊に京都にかはり、毎年異なる模様を作りかへて、その制定らず。此事今に至りて絶ず。此日近所の士庶集まるのみならず、国中の男女、隣国の遊客、作り山を見んとて、かねてより博多の町に來りつどひてやどる者そばくなり。…… 此社内に古鐘一口あり。高さ一尺七八寸、里人相伝て松浦佐依姫が寄納せしよしいへり。されど佐依姫は、宣化天皇の御時の人也。櫛田社はそれよりはるか後、孝謙帝の御時こゝに勧請せしかば、時代前後相違し侍れば、里人の説信じがたし。…… 元弘三年肥後国住人菊池入道寂阿は、後醍醐帝に二心なき御方なりしが、当国姪浜に居たりし探題北條英時を討んとて、わづか百五十騎を引率し、三月十三日府大道を西に向て姪浜へと馳行、櫛田の社を打通る時に、軍の凶をや示されけん、又乗打したるをや咎たまひけん、寂阿が馬一足も進まず。菊池入道大に怒り、いかなる神にてもおはせよ、寂阿が戰場に向ふ乗打を咎め給ふやうやある。其儀ならば矢一筋まゐらせん、受て御覽ぜよ。とて上指のかぶらをぬき出し、神殿の扉を二矢迄こそ射たりけれ。矢を放つと等しく、馬のすゝみ直りければ、さぞとあざ笑て打通りける。事静りて後、博多の住人奥民部丞久吉と云者、社壇を見れば、菊池の射ける鏑矢を、獅子狛犬の口に含てありしこそふしぎなれ。」

幾分長い引用となったが、この内容をまとめると次のようになろう。以下、( )内は筆者注。

- 1) 櫛田社の祭神は大若子命、天照大神それに素戔鳴尊の三座である。大若子命は孝謙天皇御宇天平宝字元年（七五七）に、河内国の櫛田社から勧請された。この命は垂仁朝において活躍し、越国の賊を平定した功で天皇から大幡主命を賜った。素戔鳴尊の鎮座は、藤原純友の乱で活躍した小野好古が山城の祇園社を勧請したものである。天照大神の祭祀については、それが何時始まったかは分からない。

（現在の櫛田神社の祭神と全く同じになっており、この三神は江戸時代初期から替わっていないことになる。博多の櫛田神社に関する史料としては、この風土記が最も重要なものとなっている。）

- 2) 博多の山笠祭りの始まりは、後花園院永享四年(一四三二)である。

（風土記に説明されている、山笠の大きさや飾り、櫛田入りしてのちに町中を昇<sup>かき</sup>回る、見物客が諸国から集まる等は、現在と殆ど変わる所が無い。ただ、昔は現在の飾り山笠を昇<sup>かき</sup>ていたことがわかる。現在のように追山笠の背丈が低くなったのは明治三十一年からで、電線を切るからというのがその理由である。なお、山笠の起源については、貝原益軒の説も含め幾つかの説があるが、地元では、承天寺<sup>じょうてんじ</sup>の開祖聖一国師が仁治二年（一二四一）に疫病除去のため、施餓鬼棚に乗って祈祷水をまいたのがその始まりである、との説を採っている。）



飾り山笠

- 3) 神社内に古鐘が残されており、これは佐依姫の寄納したものと里人に伝承されている。しかし、この姫は宣化天皇時代の人であり、櫛田神社の創建が孝謙天皇の時代だから、二百年以上も昔のことになり里人の伝承は信じられない。

（この伝承は、櫛田神社の創建が考えられているより、更に古い時代であることを示している可能性がある。）

- 4) 肥後国住人菊池入道寂阿が櫛田社の前を通り掛かったところ、馬が進まなくなったので、怒った入道寂阿は神殿に鎬矢を射掛けた。あとで社壇を見たところ狛犬が其の矢を口にくわえていた。

（この話は、肥前神埼の櫛田社にも伝えられており、何れの櫛田社の伝承かは分からない。）

貝原益軒の『筑前国続風土記』に記されている櫛田社関係の記事は、以上のようなものである。この風土記は元禄元年(一六八八)、国主黒田光之の命によりその編纂が進められたものであり、完成したのは二十三年後の宝永七年(一七〇〇)のことである。これから博多の櫛田神社の祭神について検討を進めるが、ここに紹介した『筑前国続風土記』を一つの基本史料としておきたい。

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いです。>> [\(筆者\)](#)  
「古代ヤマトの遠景」: [バックナンバー](#)

## ■ 編集後記

PVC Design Award で受賞した作品の商品が、「PVC ものづくりショップ」で販売されています。最近、プラスチック甲冑、メッセージボードが追加されました。詳しくは次の URL からご覧ください。

<https://www.rakuten.co.jp/monodukuri-shop/>

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601    ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp>    ■ E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)

---

---